

平成 27 年度 第 1 回小松市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 27 年 4 月 1 日 (水)
開会 14 時 00 分 閉会 14 時 45 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司
小松市教育委員会
教 育 長 石黒 和彦
委 員 北村 嘉章
委 員 野田 美和子
委 員 蘆邊 千鶴子
委 員 吉原 慎吾

(事務局関係)

総合政策部長	早松 利男
総合政策部 経営政策課長	藤井 勝司
総合政策部 経営政策課主査	太田 司
教育委員会事務局 シニアマネジャー	柿本 欣也
教育委員会事務局 教育庶務課長	唐木 和也
教育委員会事務局 教育庶務課担当課長	池田 美和子

4 協議事項 (1) 小松市総合教育会議運営要綱について
(2) 小松市教育大綱について

5 議事の概要

○開 会

○和田市長あいさつ

○協議事項

(1) 「小松市総合教育会議運営要綱 (案)」について (事務局説明【資料 1】)

〈市長・教育長・教育委員一同〉 小松市総合教育会議運営要綱 (案) について同意・決定。

(2) 「小松市教育大綱 (案)」について (石黒教育長説明【資料 2】)

〈議長：和田市長〉 今回の案をまとめるにあたり、これまでも皆さんと議論してきている。
皆さんからご意見等を伺いたい。

〈北村委員〉 小松市教育目標「学びの道しるべ」の推進計画と教育大綱（案）との整合性・関連性については。

〈石黒教育長〉 平成 25 年 4 月策定の「学びの道しるべ」からの継続性・一貫性を図るため、教育大綱（案）の目標・理念、具体的な施策・数値目標等については「学びの道しるべ」を基本的に踏襲。

〈議長：和田市長〉 先に策定した「小松市子ども・子育て支援事業計画」とのつながりを意識しており、つまり、幼児教育から義務教育、高等教育の一貫性を重視している。また、現在検討を進めている公立 4 年制大学とも時期が重なっていることで、より一貫性が増してくる。

〈北村委員〉 教育委員会ではこれまで現状を重視してきたが、未来志向がとても重要である。推進組織や政策を柔軟に展開していくことが明記されており、とても良い内容。

〈吉原委員〉 教育大綱（案）が他の様々な計画と密接に連携していくことが重要。

〈野田委員〉 義務教育だけでなく、幼・保・小・中・高・大まで幅広く人材育成を展開していけることはとても良い。

〈蘆邊委員〉 未来を見据えることは大切。そのため、まずは現状をしっかりと認識するとともに、柔軟な組織体制で取り組んでいくことが重要。

（石黒教育長【資料 2】7 ページ下段の「推進組織」について補足説明）

〈議長：和田市長〉 総合教育会議は、市長部局と教育委員会が一体となって協議を行いながら教育を進めていくということに大きな意義。

今後は、いじめ、家庭教育・地域教育、社会奉仕など、市内小中学校が展開していく仕組みづくりがとても大切。全国植樹祭が 5 月に開催されるが、緑の少年団が全 25 小学校で結成できたというのはまさに学校と地域の力。

〈吉原委員〉 1 つの学校でなく、市内の全学校でしっかりやれる仕組みづくりが重要。

〈蘆邊委員〉 教育に携わる人みんなで取り組むという意味を市全体にしっかりと浸透させることが重要。

〈野田委員〉 教育大綱（案）により、みんなが同じ目標を持つことが重要。

〈北村委員〉 これまで教育委員会では、特に学校教育に軸を置いてきたが、教育大綱（案）も踏まえ、幼・保や高等教育も含め、全体が未来に向かって同じベクトルでやっていくことはとても良い。

〈石黒教育長〉 これまでも、教育、特に学校教育に対し、市長部局から大きな支援を受けながら取り組みを行ってきた。この地方教育行政制度改革により、より一体となった教育行政が展開できることは大変心強い。今後、総合教育会議で様々な協議を行いながら、教育の質の向上を図っていく。

〈議長：和田市長〉 これまでも議論してきたが、今回の教育大綱（案）に対し、再度ご確認いただきご意見があれば事務局へご連絡いただきたい。
今後の進め方について事務局より説明を。

（今後の進め方について事務局説明）

- ・4 月中にパブリックコメント及び学校教育関係者からの意見を伺い、その意見を反映し、随時、総合教育会議を開催。
- ・5 月下旬に市議会常任委員会へ報告説明。6 月の市議会定例会での意見も反映し、随時総合教育会議を開催。
- ・6 月中に「小松市教育大綱」を決定し、公布・公表。

〈市長・教育長・教育委員一同〉 教育大綱（案）及び今後の進め方について異議なし。

○閉 会